

横須賀市中小企業景況レポート

第14号（平成28年4月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町11
電話 046-822-8122

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoureport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：170社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査157社）
- ③ 調査期間：前期・・・平成27年 10～12月の景況感（調査時点 平成27年12月1日）
今期・・・平成28年 1～3月の景況感（調査時点 平成28年3月1日）
次期・・・平成28年 4～6月の景況感（ ” ” ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：DI値算出による（次ページにDI値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

*DI値調査結果は裏面に記載

全業種の景況感は、前期の6Pから8P悪化し、△2Pとなりました。

業種別では、不動産業が21P悪化で8P、サービス業が22P悪化で△5Pとなりました。

逆に建設業は6P改善し、16Pとなりました。

今期大きく悪化した不動産業ですが、次期には34P回復して前期を上回る42P、また卸・小売業も15P改善すると予想されています。

全業種の項目別で見ると、雇用人員は前期と同様△22Pのまま人材不足感が継続しています。

売上額や収益はそれぞれ10P、7Pと悪化し、△7P、△13Pとなりました。

次期は両項目とも回復が期待されています。

資金繰りは2P悪化とほぼ横ばいで、次期についても大きな変化はないようです。

また昨年同期との売上額の比較については、「増加」と回答した企業の割合が減少したため、DI値は9.2Pの悪化で△5.5Pとなりました。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（％）－悪い（少ない）等の構成比（％）を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。（マイナスは△表示）

- | | | | |
|-------------------|---|--------------|---|
| ○良い：15P以上 | ↑ | ○やや良い：6P～14P | ↗ |
| ○変わらない（普通）：△5P～5P | → | | |
| ○やや悪い：△6P～△14P | ↘ | ○悪い：△15P以下 | ↓ |

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

以下（ ）内は前回調査比 DI 値の増減

(1) 製造業 5 <変わらない> →

景況感DI 値は5P（△6P）、売上額DI 値も△5P（△13P）とやや厳しい状況ですが、収益DI 値は△10P（+11P）と改善しました。次期の収益DI 値も、若干の改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・ 新型機械導入により、生産面でのコスト削減等により売上増加に繋がっている。
- ・ 今期は値上げの効果で微増。利益率も改善。
- ・ 高齢者人口は今後増加との統計調査もあり、マーケットは存在し続けるので、丁寧な説明や品揃えの充実で売上を伸ばせるものとする。
- ・ 報道の通り、景気が良いのは大企業だけ、というのが実感で業界全般に販売がとまった感あり。
- ・ 仕事が入ってくる話はない。同業他社や県外に聞いても、業界全体引き合いが少ないようだ。
- ・ 上場会社からの受注が一段落し、良かった時期に比べると受注量は減っている。
- ・ 売上げが停滞し同業間の競争激化による利幅の縮小等があり、売上・収益共に減少となる。

(2) 建設業 16 <良い> ↑

景況感DI 値は、「良い」が増え、売上額DI 値は11P（△4P）、収益DI 値は3P（+3P）と前期比ほぼ横ばいです。一方、雇用人員は、△27P（+6P）と前期に比べ若干の改善の兆しを見せています。

☆事業者の主な声☆

- ・ 1月以降の注文住宅及びリフォームの注文も順調に推移。
- ・ オリンピック効果から東京近郊からの受注が多くを占めるようになった。
- ・ 人員が増加したことから施工はスムーズに行えている。孫受けで受注していたものが、直接受注できるようになった部分もあり利益率は上がっている。
- ・ 東京を中心に公共施設の建替並びに耐震工事受注により売上増加。
- ・ 全般的に価格を下げることで多くの顧客を囲い込むことができ、口コミで新規受注も入っている状況。
- ・ 受注依頼は増加しているものの、人員が不足しており受注に対応し切れていない状態。

(3) 卸・小売業 $\Delta 22$ <悪い> 

景況感D I 値は $\Delta 22$ P ($\Delta 5$ P)と依然厳しい状況が続いていますが、売上額D I 値は $\Delta 20$ P (+9P)と改善。次期全体の景況感は今期比+15P、収益D I 値は $\Delta 16$ P (+17P)と大きく改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆


- ・業種柄いつもなら繁忙期であるが、なかなか売上げには結びつかない。
- ・顧客高齢化が進み、小売部門の低迷が続く。景気の上昇なくして販売先の大幅な売上げは見込めない。既存取引先も代が変わってしまうとそこで取引が終わってしまう。
- ・仕入単価が上昇傾向にある中、販売価格に転嫁することは難しく利幅は減少している。
- ・旧来のディスカウント店等の激安店に加えて、メーカーのネット店舗への進出などで競合が激化し売上げが伸び悩む中、町内会や学校との交流を深めて売上げを維持している。

(4) 不動産業 8 <やや良い> 

景況感D I 値は8P ($\Delta 21$ P)で、大きく減少しました。今期、売上額D I 値 $\Delta 7$ Pと収益D I 値 $\Delta 7$ Pは前期と比べ低下していますが、次期に向けては、それぞれ+49P、+41Pと大幅に改善することが見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・入学シーズンとなり、新入生の賃貸アパート入居の争奪戦が続いている。
- ・自社PJは順調に施工・契約・引渡しが進んでおり売上げは増加傾向にある。
- ・市内の賃貸住宅も飽和状態、物件の価値を高めて競争力の強化を図っている。最近は個人のオーナーからの相談も増えている。
- ・市況は依然として厳しく予断を許さない。エンド価格は引続き下落している。

(5) サービス業 $\Delta 5$ <変わらない> 

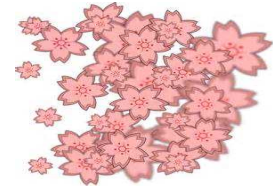
今期景況感D I 値は $\Delta 5$ P ($\Delta 22$ P)と悪化、次期予想は ± 0 Pと横ばいの傾向が示されています。売上額D I 値は $\Delta 11$ P ($\Delta 35$ P)、収益D I 値は $\Delta 8$ P ($\Delta 23$ P)であるものの、次期はそれぞれ+8P、+2Pと改善の兆しが見込まれています。雇用人員D I 値は、今期 $\Delta 19$ P (+3P)、次期 $\Delta 17$ P (+2P)と徐々に人手不足が解消される傾向にあります。

☆事業者の主な声☆

- ・固定客を掴んでおり、売上げに大きな変動は無い。しかしながら顧客の高齢化が進んでいる為、若年層へのアプローチを強化し、若い世代の顧客を取り込む事が喫緊の課題である。
- ・本業の収益性はあまり良くなく薄利多売となっているが、他の部門で収益をカバーしている。
- ・老若男女、お金にシビアで飲食代に使わない傾向があり、周りにいろいろな飲食店が出来たのも売上げが伸長しない要因の1つと思われる。
- ・原油価格の下落により小売価格も安くなった分、利益率も圧縮されてきている。
- ・業種柄、冬は閑散期となる。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成27年10～12月の景況感（調査時点 平成27年12月1日）
 今・・・今期 平成28年1～3月の景況感（調査時点 平成28年3月1日）
 次・・・次期 平成28年4～6月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	173	40	39	42	11	41
今期	170	39	37	45	13	36
次期	165	39	35	44	12	35

(単位：ポイント)

項目	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況	景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
良い(A)	29	23	21	37	31	21	28	35	26	18	16	18	43	8	50	29	17	9
変わらず	48	52	59	37	43	51	54	46	60	47	46	57	43	92	42	59	61	77
悪い(B)	23	25	20	26	26	28	18	19	14	35	38	25	14	0	8	12	22	14
DI値(A)-(B)	6	△2	1	11	△5	△7	10	△16	12	△17	△22	△7	29	△8	42	17	△5	△5
今-前、次-今	△8	3		△6	△12		6	△4		△5	15		△21	34		△22	0	
売上額	製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
好転(A)	31	23	25	34	31	23	33	38	34	20	16	18	29	8	50	39	14	17
変わらず	41	47	50	40	33	49	49	35	43	31	48	50	50	77	42	46	61	63
悪化(B)	28	30	25	26	36	28	18	27	23	49	36	32	21	15	8	15	25	20
DI値(A)-(B)	3	△7	0	8	△5	△5	15	△11	11	△29	△20	△14	8	△7	42	24	△11	△3
今-前、次-今	△10	7		△13	0		△4	0		9	6		△15	49		△35	8	
収益	売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
増加(A)	22	17	22	14	21	21	23	27	29	22	11	16	29	8	42	27	14	17
変わらず	50	53	53	51	48	56	54	49	45	39	45	52	42	77	50	61	64	60
減少(B)	28	30	25	35	31	23	23	24	26	39	44	32	29	15	8	12	22	23
DI値(A)-(B)	△6	△13	△3	△21	△10	△2	0	△3	3	△17	△33	△16	0	△7	34	15	△8	△6
今-前、次-今	△7	10		11	8		3	0		△16	17		△7	41		△23	2	
雇用人員	需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
多い(A)	6	6	4	11	8	5	3	5	6	6	7	2	0	0	0	5	6	3
適正	66	66	76	63	59	72	61	63	69	67	64	80	86	92	92	68	69	77
少ない(B)	28	28	20	26	33	23	36	32	25	27	29	18	14	8	8	27	25	20
DI値(A)-(B)	△22	△22	△16	△15	△25	△18	△33	△27	△19	△21	△22	△16	△14	△8	△8	△22	△19	△17
今-前、次-今	0	6		△10	7		6	8		△1	6		6	0		3	2	
資金繰り	資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
楽である(A)	13	11	10	13	18	15	8	14	14	14	9	7	14	0	8	17	6	3
さほど苦しくない	68	70	74	61	64	70	74	67	69	57	64	70	79	92	84	78	77	86
苦しい(B)	19	19	16	26	18	15	18	19	17	29	27	23	7	8	8	5	17	11
DI値(A)-(B)	△6	△8	△6	△13	0	0	△10	△5	△3	△15	△18	△16	7	△8	0	12	△11	△8
今-前、次-今	△2	2		13	0		5	2		△3	2		△15	8		△23	3	

〈参考〉昨年同期と現在の売上比較(回答 147社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	39社	26.5%	35.6%
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	61社	41.5%	32.5%
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	47社	32.0%	31.9%
DI値(A)-(B)		△5.5 P	3.7 P

